

シグマ研究委員会 核データ評価W.G. 中重核データ S.W.G
1983年度 第3回 会合議事録

日 時 : 1983年11月4日(金) 13:30~17:30

場 所 : 原研本部第6会議室

出席者 : 菊池康之(原研), 飯島俊吾, 吉田 正(NAIG), 山越寿夫(船研),
八谷雅典(三井造船)

配布資料 : HM-83-9 ; Fe の DDX グラフ (JENDL-2.5A, JENDL-2,
; ENDF/B-IV)
HM-83-10 ; Fe (JENDL-2.5A) の角度分布と非弾性散乱断
面積
HM-83-11 ; Cr, Ni, の DDX グラフ (JENDL-2, ENDF/
B-IV)
HM-83-12 ; 杉: Ni についての GNASH 計算準備

議 事 :

1. Fe (JENDL-2.5A) の検討

- 資料 HM-83-9, 83-10 に基いて検討を行った。
- その結果以下の点を修正して再度 DDX を計算することにした。
 - 1) Fe-56 の 1st level (0.85 MeV) は実験値に合わせて 50% 位大きくする。
 - 2) Fe-56 の 3⁻ level は 50% 程度下げる。
 - 3) (n, n' p) は立上りがゆるやかなので, (n, 2n) の立上りから上で考慮し, それ以下では無視する。
 - 4) (n, 2n) と continuum inel の境界は 0.5 MeV 程度の overlap を考える。
 - 5) direct inel の角度分布を考慮する。

2 Ni Cr の作業計画

- 資料 HM-83-11 により, JENDL-2 と実験値の傾向から Fe と同じやり方が有効と考えられる。
- Cr, Ni の ECIS 計算, 角度分布の Legendre 係数フィットは終了している。
- GNASH 計算は, Ni は杉委員, Cr は浅見委員が準備している。
- Ni について資料 HM-83-12 により重要な反応を確認した。